虹の原特別支援学校壱岐分校　地域支援通信　第４号

（令和７年度　Ｎｏ．１）

びびっと！✨

壱岐市内の特別支援教育に携わる皆さま、初めまして。または、今年度もよろしくお願いいたします。虹の原特別支援学校壱岐分校 教育支援部の山﨑翔矢です。ここでは、昨年度から先生方の特別支援教育に関する悩みや疑問に一つでも多くお答えできるような情報を発信しています。これまで以上に多くの情報をお伝えできるように頑張りたいと思っておりますので、ぜひご一読いただけるとうれしいです。

タイトルの「びびっと！」ですが・・・

・本校の校名に入っている「虹」のごとく鮮明で有益な情報（vivid）

・これを読んだときに「びびっと」感じるような情報

・この記事をきっかけに子供たちや先生方が生き生きとなるような情報（vivid）

このような意味を込めました。壱岐市内の先生方のニーズをできるだけ拾い上げて記事にしていきたいと思っていますが、その他にも取り上げてほしい内容等がありましたら、いつでも虹の原まで御連絡ください。お待ちしております。

「気になる行動」には理由がある

今年度第１回のテーマは「気になる行動」についてです。新しい学級を担任して１学期が終わり、子供たちの実態を把握でき始めたころではないでしょうか。それと同時に「この子は〇〇ができるようになるのに時間が掛かるなあ」「お友達とトラブルになってしまうことが多いなあ」などと、子供たちの“気になる行動”が見え始めたころではないでしょうか。しかし、そのような“気になる行動”には必ず理由があります。その理由が分かれば、教師・保育者からすると「困った子」と見えていた子供が、その子自身が「困っている子」と捉えることができるようになり、その子に対する見方・考え方

が大きく変わってくると思います。今号では、「困っている子」がなぜ困っているのか、その理由を明らかにしていきたいと思います。

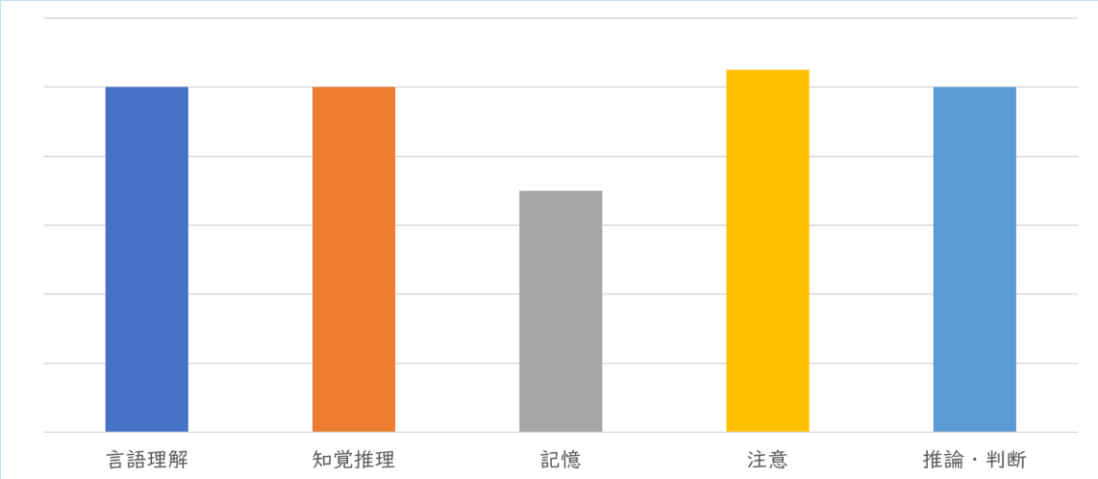
認知機能とは

認知機能とは、**見たり、聞いたり、触れたり、嗅いだり、味わったり**して得た情報を整理してまとめる力のことです。人は認知機能をもとに自分の行動を計画・実行します。つまり、認知機能は行動の決定に大きく関わる機能である、と言えます。

また、認知機能は、様々な要素が考えられますが、『言語理解』、『知覚推理』、『記憶』、『注意』、『推論・判断』に分類することができます。この要素をまとめると以下のとおりです。

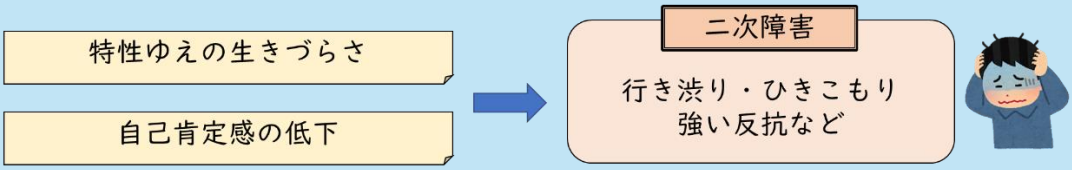
言語理解	相手が話す言葉や文章を理解したり、言葉を用いて自分の意思を伝えたりする力
知覚推理	非言語的な情報（視覚的な情報等）を理解する力
記憶	情報を記憶にとどめる力
注意	特定の事柄に意識を向ける力
推論・判断	利用可能な情報から結論や新しい情報を導いたり、判断したりする力

それぞれの認知機能は、個人内において、得意・不得意があります。例えば、言葉を聞いて理解することが得意な人もいれば、どちらかというと目で見た情報をもとに理解することが得意な人もいる、というようなことです。つまり、その得意・不得意は、その人の個性・特性と捉えることができます。



＜A さんの認知機能＞

前ページのグラフ、Ａさんの認知機能を見てみましょう。他の認知機能と比べると、「記憶」に関するグラフだけが短く、他の認知機能と比べて偏りがあることがわかるかと思います。Ａさんのように、個人内で得意・不得意の差が大きい場合は、学習上または生活上の困難が生じることがあります。（**個人内差**）



もし、この個人内差が原因による学習上または生活上の困難を私たち教師・保育者が理解しないままに、本人の不注意や努力不足として必要以上に叱ったり、注意をしたりすることが繰り返してしまうとどうでしょうか。

「頑張っているんだけど、どうしてもうまくできない」と本人も悩んでしまい、「どうせ僕なんか…」と自己肯定感が低くなっていくという事態が発生してしまうかもしれません。そして、そのような生きづらさや自己肯定感の低下が続くと、行き渋りやひきこもり、強い反抗などの二次障害につながることもあります。そのようなことにならないために、それぞれの子供の特性を正しく理解し、その特性に応じた指導・支援を行うことが必要です。

認知機能の関わる課題とその対応

ここからは、認知機能に関わる課題や、その対応などについて整理したいと思います。

言語理解	相手が話す言葉や文章を理解したり、言葉を用いて自分の意思を伝えたりする力

に課題があると･･･

●言われたことを正確に理解することが難しい。

●自分の意見や考えを言葉で伝えることが難しい。

●読むこと、書くことが難しい。　　などが生じることが考えられます。

以上のような、「言語理解」に課題がある子供に対して、考えられる指導・支援としては、

〇指示や、説明は短い文で伝える。

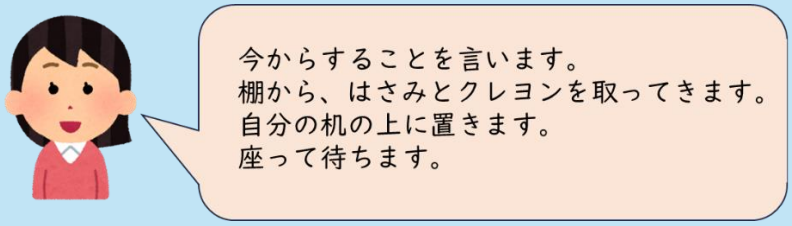
〇言葉による説明だけではなく、お手本を見せる、手にとって教える、絵・図・写真を用意するなど、視覚情報や動作を活用する。

〇説明や指示を始める前に、重要な言葉や概念の意味を伝えたり、 書いて示したりする。

などが考えられます。

例えば、よく制作活動などするときに、準備物の指示を出すことがあるかと思います。

そのようなときに「じゃ、棚からはさみとクレヨンをとってきて机の上においてから座って待っててね」などのように、複数の指示を一度に説明をしてしまうと、混乱してしまう子供は少なくないと思います。



このように、一つの行動を、短い文で伝えることで、理解がしやすくなる子供もいます。

また、説明の際に、絵カードを示すことで、理解しやすくなる子供もいます。

時間の視覚化（1日の流れを示す）

今回の予定

言語での理解に課題がある子供に対しては、左に示しているように、1日の流れを説明する際、言葉での説明に加えて、視覚的にも確認できるようにしたり、また、右に示しているように、今日の予定を、時計の針の形で時刻を知らせたり、絵や文字を使って活動内容を伝えたりする方法もあるかと思います。

知覚推理	非言語的な情報（視覚的な情報等）を理解する力

に課題があると･･･

●机の上や棚、部屋の整理整頓が難しい。

●図表や絵、地図の読み取りが難しい。

●相手の表情から気持ちを読み取るのが難しい。

●目の前で起きている状況や文脈がうまく読み取れないため、自分がどう振る舞えばよいかをイメージすることができずに適応できない。　　などの困難が生じると考えられます。

以上のような、知覚推理に課題がある子供に対して、考えられる指導・支援としては、

〇視覚的に提示する情報（図表、絵など）の数を絞り、わかりやすいデザインやレイアウトを心掛ける。

〇視覚情報を言葉に置き換える。

〇絵や図に言葉を添える。　　などの工夫が考えられます。

記憶	情報を記憶にとどめる力

に課題があると･･･

●ルールや約束等を覚えることができず、活動上の困難が生じたり、 対人関係においてトラブルが生じたりすることがあります。

●また、一度にたくさんのことを言われると全体がつかめず、重要な情報を聞き漏らしてしまったり、情報を整理したり、順序立てたりすることが難しくなることがあります。

などの困難が生じると考えられます。

以上のような、記憶に課題がある子供に対して、考えられる指導・支援としては、

〇口頭による指示をする際は、短く、簡潔に、繰り返して伝える。

〇複数の指示をする際は、「一つめの連絡は」「二つめの連絡は」などのようにナンバリングして覚えやすくする。

〇指示を紙に書いたり、絵や写真にしたりして、視覚的に伝える。

〇適切なタイミングで、指示や手順を思い出すきっかけやヒントを与える。

今からすることを言います。
棚から、はさみとクレヨンを取ってきます。
自分の机の上に置きます。
座って待ちます。

1　はさみ　と　くれよん　を　とってくる

2　つくえ　の　うえ　に　おく

3　いす　に　すわって　まつ

言語理解のところで例に出した指示ですが、口頭による指示だけでなく、このように、文字や絵で書き示したものをボードに貼っておくことで、視覚的に伝えることもできますし、また、子ども自身が自分で確認をしながら活動を進めるヒントにもなります。

注意	特定の事柄に意識を向ける力

に課題があると･･･

●落ち着きがないように見える。

●細かいところまで注意を払わず、ちょっとしたミスが多い。

●他のことに気を取られやすく、面と向かって話しているのに聞いていないように見える。

●中途半端に複数の仕事に取り掛かってしまう。　　などの困難が生じると考えられます。

以上のような、注意に課題がある子供に対して、考えられる指導･支援としては、

〇最初に名前を呼ぶなどして注意を促した後に指示を伝える。
〇不必要な言葉を少なくし、期日・期限などの大切なキーワードを強調して伝える。
〇ミニホワイトボードを活用して、キーワードを指差ししながら伝え、説明後は掲示しておく。
〇注目すべき部分を拡大して提示する。
などの配慮が考えられます。

注目すべき部分を明確にする

こちらの写真ですが、注目すべき部分がわかりやすいよう色合いの異なる紙を使うことで、子供たちにとって見やすくなっています。
また、大きめの紙で示すことで、注目すべきところをわかりやすく示しています。
右の方には、その前の手順も残されています。
先ほども説明した、活動を進める際のヒントになるものも示されています。

推論・判断	利用可能な情報から結論や新しい情報を導いたり、判断したりする力

に課題があると･･･

●見通しをもって行動することが難しいことがある。
（例:「明日は雨で遠足はないから、教科書を用意しておこう」と判断する。）

●相手の発言の意図を推し量ることが難しいことがある。

●場の空気を読むことが難しいことがある。

●とっさの判断が難しいことがある。

●分かっていることから、分かっていないことを予想したり、想像したりすることに困難が生じることがある。

（例：教科書で紹介されているカブトムシの成長の過程を理解したが、クワガタムシもきっと同じだ、とは思えず、別物として捉えてしまう。）

●複数の情報を整理してまとめることが難しいことがある。

（例：「～～でーーなら、つまり××ということか」と考える） などの困難が生じると考えられます。

以上のような、注意に課題がある子供に対して、考えられる指導・支援としては、

〇あいまいな表現を避けて、具体的に伝える。

〇場面や状況、因果関係を説明する際には、言葉やイラスト・写真等で分かるように示す。

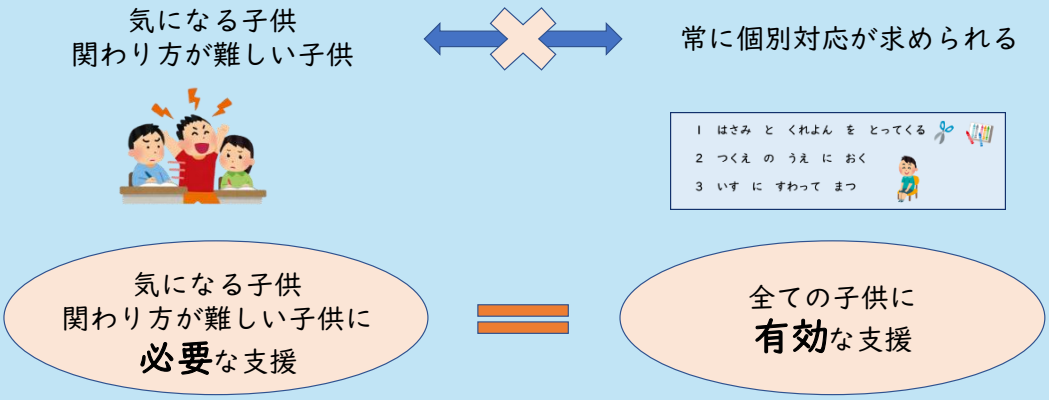
〇考える順番や今後の計画について、言葉やイラスト・写真などでも分かるように示す。

〇質問するときには、「はい」、「いいえ」などの選択肢から答えられるようにする。

などの配慮が考えられます。

“全ての子供にとって「有効な」支援”であるために

ここで、支援の考え方についてまとめます。気になる子供、関わり方が難しい子供に対して、常に個別対応が求められる、個別対応をしなければという思いについなりがちです。しかし、もうすでにお気付きの方も多いかと思いますが、そういった子供たちに、常に個別対応が求められるということでは、決してないということです。



ここまで紹介させていただいた支援の方法は、**認知の特性がある子供、何か気になるな、関わり方が難しいなという子供には「必要な」支援であると同時に、全ての子供にとっても「有効な」支援である**ということです。そのような視点で支援を考えることによって、〇〇さん、□□くんだけでなく、

その周りの子供たち、つまりクラスの子供たち、全ての子供たちにとってもよりよい支援につなげることができます。

　すると、クラス全体が安心した空間、環境になっていきます。そうすることで、気になる子供、関わり方が難しい子供たちにとっても過ごしやすい環境が生まれるという相互作用が生まれてくると思います。

最後に

　繰り返しになりますが、認知機能のそれぞれの得意・不得意は個性・特性です。得意・不得意に大きな差がある場合は、学習上または生活上の困難が生じることがありますが、本人の努力や心がけの問題ではありません。また家庭でのしつけや育て方の問題でもありません。

　厳しい指導や叱責の繰り返しは、その場では解決したように見えても、時間が経つとまた繰り返してしまうなど、効果は限定的です。だからこそ、本人や家族の気持ちや事情に寄り添い、支援していく姿勢がとても重要です。

　クラスの中に、たくさんの子供たちがいる中で、「あの子のためだけに、どうやったら個別的な特別な支援ができるんだろう」と、悩まれていた方もいらっしゃるかもしれませんが、今号を通して、**「支援は、全てが特別なものではない」**ということを感じていただけたのではないでしょうか。

　これまで、皆さんが大切にされてきたことを、少しだけ丁寧に、意識的にするだけで、支援の必要な子供が過ごしやすくなったり、学びやすくなったりします。支援の必要な子供が過ごしやすく学びやすい環境は、クラスの全ての子供にとって過ごしやすく、学びやすい環境です。それは、一言で言うと、「安心感のある学校・園生活」と言えるのではないでしょうか。ぜひ、皆さまには、「子供たちにとって、そして保護者にとっても、安心感のある学校・園」をつくっていっていただきたいと思います。

長所を生かす

特性に応じた支援